

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

写真は1991年11月19日  
第21回徳島県中学校  
同和教育研究大会  
(板野中学校3年B組公開授業)

人の世に熱あれ 人間に光あれ⑦ ～人権学習の醍醐味は語り合いにある～

1991年11月19日 徳島県中学校同和教育研究大会(板野中学校3年B組公開授業)

資料とした「水平社宣言讃歌」への語り合いは、公開授業の教室全体を熱いものとしていきます。その語り合いは、人権学習のあり方を参観者に問いかける語り合いとなっていく。

## M・Mの語り「部落に生まれたことが誇りになった水平社宣言讃歌」

この水平社宣言讃歌を勉強して、その前に水平社宣言を学習して何となくだけその水平社宣言を自分の生き方につないでいったんだけど、この水平社宣言讃歌を勉強したら、水平社宣言に書かれていることは、もっと生活の上に生かすことがたくさんあるんだということがわかってきたと思います。

宣言の中に「われわれがエタであることを誇りうるときがきた」というのがあるけど、水平社宣言讃歌によって心から、自分が部落に生まれたということ誇りうるときがきたのだというように受け止められるようになりました。だからこの水平社宣言讃歌は僕が生きていくための支えとなり、また授業を頑張っていくためのエネルギーとなり、僕らにとって今まで学習してきた中で一番大切な資料になりました。



## Y・Iの語り「絶対差別をなくすという自信も生まれてきました」

ちょっと資料から離れるんだけど、私たちはずっと2年生の時から同和問題学習に取り組んできて、今までの授業の中ではすごく悲しくて涙を流すこともあったけど、今のみんなは悲しみではなくて差別に対する怒りで燃えていると思います。そして、前の郡同研(板野郡同和教育研究大会公開授業)の時はこんなにたくさんの先生方はいなかったけど、この県同研ではこんなにたくさんの先生方が私たちの授業を見に来てくれたということは、私たちにすごいそれだけの力があるんだと思います。私たちに人は変える力があるから、絶対差別をなくすという自信も生まれてきました。やっぱり同和問題学習に取り組んできてよかったと思います。



## H・Iの語り「なぜか涙が出てくるんだけど、この勉強をしていて良かったと思う」

さっきのM・M君の発言につなげるような形になるけど、僕も水平社宣言や宣言讃歌を勉強してきて、自分の生き方の支えとなるものがいっぱいできてきたと思います。この資料を勉強していなかったら、やっぱりずっと部落に生まれたことを隠していこうという気持ちが先にきて、部落差別とたたかって生きるといふような思いは沸き起こってこなかったと思います。今、なぜかうれし涙というのか、何かそういうふうなのが流れてくるんだけど、やっぱりこの勉強してよかったと思います。

## S・Nの語り「一人一人の語りに思いをつないでいくよこびがこの学習にはある」

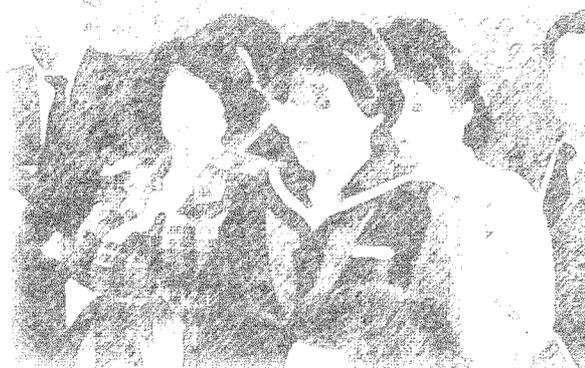
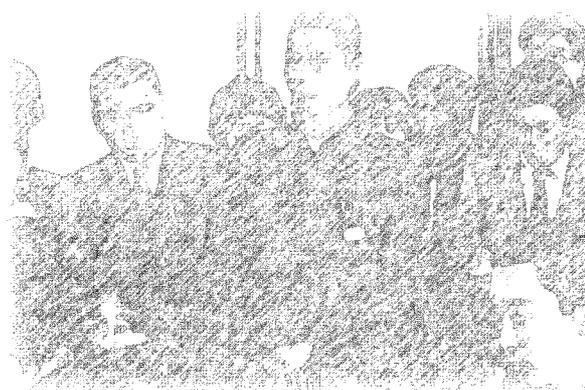
H・I君を始めクラスみんながいて、私が意見を言ったら、手を挙げて私の意見に付け足してくれたり、また誰かが言った意見に私が付け足したりして支え合っていて、そんな仲間ができたのはこの勉強をし始めてからで、水平社宣言讃歌という詩は私も一生大切にしていかなければならない一つだと思いました。

## K・Hの語り「水平社宣言讃歌から差別の深い部分が理解できたと思う」

僕もS・Nさんと同じで、やっぱり自分が発言したらみんなもそれに応えて発言してくれることがとてもうれしいです。そしてこの資料がなかったら差別の深い意味を一生わからずに過ごしていたかもしれません。

## K・Tの語り「この学習から私たちは深い絆で結ばれていることが分かりました」

私はこの資料やこの学習から、自分一人ではないということがわかりました。怒りを言葉に変えることで、相手に苦しみや悲しみが伝わってよりよい人間としての結び付きが生まれ、私たちは深い絆で結ばれていくことがわかりました。



本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおブランチ共同代表 森口 健司